

南信

中高一貫の未来図

諏訪清陵附属中 来春開校

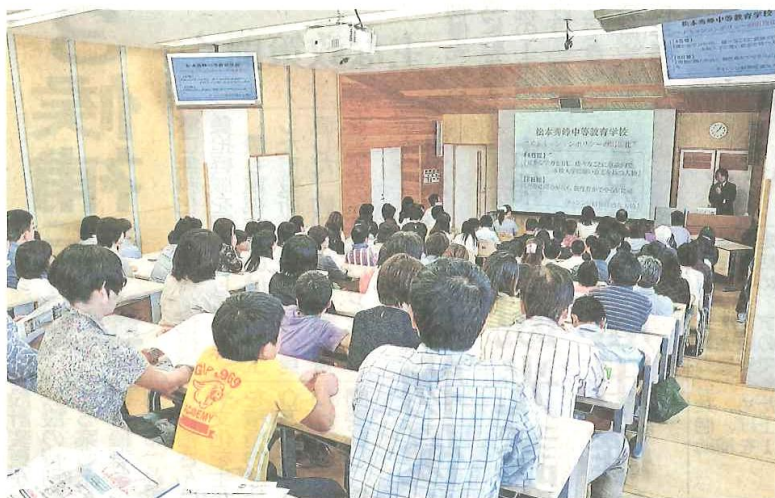
9月29日、松本秀峰中等教育学校（松本市埋橋）が開いた学校説明会に、小学生や保護者ら計約150人が集まった。「（中学相当の）1〜3年で高校の学習内容を一部先取りし、6年生は大学受験に向けて総括ができる」。保護者はそうした説明を真剣に聞き、同校に対する関心の高さを示した。

同校は県内で初めて中学、高校に相当する6年制の中等教育学校として2010年に開校した。説明会に出た松本市の小学6年の男児（11）は「将来の夢は医者」。母親（41）は「ここで授業を受けられたら、この思いが高まった。息子の夢に近い」と目を輝かせた。

開校4年目の同校では1〜

第3部 県内校の実践 ③

13



松本秀峰中等教育学校が開いた学校説明会。小学生や保護者ら約150人でいっぱいになった＝9月29日、松本市埋橋

独自カラーで視野広げ

中等教育学校や女子校

4年（各学年2学級）の計333人が学ぶ。1、2年で中学、3〜5年で高校の学習内容を終え、6年は大学受験対応内2位」と胸を張った。

策に集中。説明会で担当者は「直近の全国模試で、4年（高校1年）の学校別平均点は真

一方、菱田智晴教頭（50）は「高校入試がなく、大学受験はさらに先のため、目的を見失う生徒もいる」と指摘する。その対策が4年生の4月に組み込んだ海外研修だ。初めて実施した今年は2週間近く英国に滞在し、ホームステイや企業、学校訪問で英語圏の文化に触れた。

2年生で海外留学経験者の話を聞いたり、英国文化を学んだりする授業を始め、3年生では英会話に力を入れる。6年間の中間に大きな目標を設定し、学習意欲を維持したという。

4年の小松実希さん（15）は現地の同世代の子とも将来について話したといい、「人助けをする仕事をしたいという思いが同じだった。お互い頑張ろうと言えた」。菱田教頭は「海外で働くことに興味を持った生徒もいる」と、研修の成果を強調した。

09年に長野清泉女学院高校（長野市箱清水）に併設さ

れた同女学院中学校（同）は、県内の中高一貫校唯一の女子校で、キリスト教に根差した教育内容が特徴だ。西沢善明校長（65）は「多感な時期に人を愛し、大切にすることを身に付けてほしい。家庭と仕事を両立し、社会に貢献できる女性を育てたい」と言う。

同中は1学年1学級（35人）。同高に進んでもクラスの色は変わらない。6年間を通じて人間関係を深めることができるが、西沢校長は「人間関係が固定されることへの配慮も必要だ」。週2回の「総合的な学習の時間」に社会人や大学生を招き、進路選択の考え方や高校時代の過ごし方などを聞いて視野を広げる試みをしている。

同じ敷地内で学び、部活動も一緒に同高生徒から受ける影響も小さくない。同中1年の宮沢那歩さん（12）は吹奏楽部で高校生と活動している。「先輩は礼儀正しい。自分も伝統を受け継ぎたい。最大で5歳年長の高校生と接することの魅力を感じた」。